

阿弥陀如来

聖徳太子（574～622年）の母親である皇后穴穗部間人を弔うために、西方浄土の阿弥陀如来の金銅像がつくられた。阿弥陀は単独ではなく、菩薩を脇侍として従えている。経典では、阿弥陀は無限の光の仏陀であり、人間界の苦しみから解放してくれる。ここでは、阿弥陀は台座の上に座り、その両手は瞑想のかたちをとっている。

1097年頃に本来安置されていた像が盗賊に盗まれたため同じ金堂内にある釈迦如来像と薬師如来像をまねて鎌倉時代に新たに造頭された像である。